SOS 子どもの村 JAPAN

NEWS LETTER 05

［発行責任者］保科 清　［事務局］〒810-0054 福岡市中央区今川2-14-3 3F　［Tel］092-737-8655　［Fax］092-737-8665

NEWS 01

子どもの村福岡開村 5 周年・子どもの村東北開村記念シンポジウム
ロバート キャンベル教授と語る『子どもと家族』

7 月 3 日、福岡市天神のエルガーラで、子どもの村福岡開村 5 周年、子どもの村東北開村記念のシンポジウムが開かれ、250 名の参加者を迎えました。

江戸時代の絵本に見つけた庶民の子育て

基調講演では、東京大学大学院教授であり、テレビなどでも軽妙な語りで人気のキャンベル教授から、「子どもと家族」についてどんな話がうかがえるか興味津々のなか、子どもの頃に抱いた日本への関心からはじまり、研究者となってからは、日本には他国に類を見ない子どもを大切にしてきた文化があることを知ったと語られました。

ボストン美術館で発見された、江戸時代の庶民の暮らしを偲ばせる「教訓刷物貼交帖」（いわゆるスクラップブック）を紹介、江戸時代の人々が子どもたちをどのように病から守り、絵本を通して教訓を伝えようとしていたかがわかる貴重な資料であること、また、災害や病気で子どもが家族を失ったとき、ごく自然に、地域共同体や宗門などで育てていたことを紹介され、そこには、子どもが原点であり、社会の宝として見守る大人たちがいたと語られました。

改めて、子どもにとって「家族」とは何かを

座談会では、まず、子どもの村福岡の大場美徳村長が、現在 13 名の子どもたちだが、これまで一時保護も入れて 39 名の子どもたちを、地域の人々に支えられながら育ててきた日々を語りました。

子どもの村東北の今野和則村長は、東日本大震災で親を失った子どもたちのその後の状況を報告、子どもたちがまだ 3 名の、始まったばかりの子どもの村の様子を語りました。

子どもの村福岡の開村の時から、育親として子どもたちを育ててきた松永美樹さんは、はじめての子育てに悪戦苦闘しながら、子どもたちには普通の穏やかな生活が大切と考えて日々を過ごしてきたこと、自分にとって学びの多い 5 年だったとふり返りました。

キャンベル教授は、アメリカで同性婚を認める最高裁の判決で、社会の見方が根底から揺さぶられるような出来事が起き、「家族とは何か」を改めて問われていることを紹介、それぞれの立場からの意見が交わされました。

最後に、キャンベル教授は、互いに遠く離れた二つの子どもの村の交流によって、今後、どんな“化学反応”が起きるか楽しみと語って、会場はあたたかい笑いと共感に包まれました。

NEWS 02 子どもの村のいま

実家族のもとに帰った子どもたち

子どもの村では、家族のさまざまな事情の中で、子どもを手放さなければならなかった実の家族に代わって、子どもたちを里子として受け入れ、家族としてともに暮らしています。また、子どもたちと実の家族との関係を大事にし、福岡市の児童相談所と相談しながら、出来る限りご家族と交流できるようにしています。子どもたちの実の親に寄せる思いを大事にしながら、交流を重ねて、家族の下に帰っていく子どもを見送るのは、さびしくもありますが、育親さんをはじめ、みんなの喜びです。山形家の子どもたちも、そのような時間を重ねて、見送ることができました。

「国連・子どもの代替養育に関するガイドライン」

実の家族と離れて暮らす子どもたちに関する国際的なスタンダードは、「国連・子どもの代替養育に関するガイドライン」です。2009 年、「国連子どもの権利条約」が採択されて 20 周年の総会で採択されました。SOS子どもの村インターナショナルは、国際NGOとして、このガイドラインづくりに深くかかわりました。そして、私たちは、国際本部の勧めで 2011 年にガイドラインの日本語訳を出版しました。

ガイドラインの冒頭では、「家族は、社会の基本的集団であり、子どもの発達、ウエルビーイングと保護のための本来の環境であるから、まず何よりも子どもが実の両親の養育、あるいは、その他の近親者の下にとどまることができるように力を尽くすべきである。」そして、「子どもを実の家族から離すことは、最終手段であり、できるだけ短期間にとどめるべきである」と述べています。

子どもの村では、このガイドラインに学び、「実家族との連携」の方針をより明確にして、それが「子どもにとって一番いいこと」と判断できた場合、実家族のもとに帰るみちを慎重に模索しています。

育親の山形裕子さん退職

子どもの村福岡の開村の時から育親として子どもたちを育てた山形裕子さんが、6月、定年により退職しました。お料理やガーデニングが大好きで、家の周りにはいつも四季おりおりの花を咲かせ、豊かな家庭文化を伝えてくださった山形さんに、私たちは多くのことを学びました。

【ごあいさつ】　　山形裕子

5 年間二人の子どもを養育し、今春、その子ども達がそれぞれに新しい家庭で幸せなスタートを切ったのを期に定年退職いたしました。思えば、幼なかった子が二年生、小五年生に成長するまで最も可愛い時期に共に生活したことは、何にも代え難い有意義な歳月でした。

別れを前にして、残された日々を如何に過ごすか熟慮した時、頭に浮かんだことは自分自身が過ごした温かい家庭であり、こよなく愛してくれた大人がいたからこそ、今日の自分がここにあると気がつきました。

別れるからと特別な思い出づくりをすることでもなく、自立のために躾をしたり、生活スキルを上げることでもないはず。「すべての子どもに愛ある家庭を」の初心に立ち返り、精一杯愛情を注ぎ、安定した日々を過ごそうと心に誓い、「子どもの村」での生活を終えました。長い間、ご支援下さった方々に、ここに深くお礼申しあげます。

山形家の食卓　広報誌『かぞく』から

NEWS 03

子どもの村応援団

被災地の「今」を知り、私たちにできることを

エフコープ生活協同組合の取り組みから

6月下旬、篠栗町の事務所を訪問。理事の谷口さん、職員の安元部長にお話しを伺いました。エフコープさんでは、「被災地のことを忘れない」という組合員の思いから募金や被災地訪問の旅、東北にゆかりのある商品の供給、仮設住宅での「サロン活動」の支援、福島の子どもたちを九州に招待するとりくみなど、様々な震災支援活動が展開されています。

それらの活動は、報告会や機関誌等を通じて組合員のみなさんに丁寧に伝えられ、その事がまた次の活動を生み出しています。被災地の「声」に耳を傾け、本当に必要な支援とは･･･現地の方々とコミュニケーションを重ねながら、息の長い取り組みが続けられています。

今回、「ロバートキャンベル教授とともに語る『子どもと家族』」の主旨に賛同いただき、これまで「子どもの村」を知らなかった方々へ、告知・広報の面で大きなご協力をいただきました。

NEWS 04

新しい育親さん

有吉有巳子さんからご挨拶

有吉さんご夫妻

夫婦で村に引越して3ヶ月。ようやく、子どもたちにも「いつまでおると？」と言われなくなり、タマホームの家も「わが家」になってきました。

私は大牟田、夫は二日市の出身で、高校卒業以来ほぼ40年ぶりの福岡暮らしです。村を知ったのは、あるサイトでみた1枚の写真でした。「こどもの村って何だろう」と草むしりに参加し、社会的養護の子どもたちの厳しい状況を初めて知りました。自分の無知が恥ずかしくて里親講座に通ったり本を読んだりしている時に、村の家が空いていると知りました。「もったいない！誰か育親になればいいのに」と思い、その誰かになることを夫婦で決めました。

子どもたちの役にたてる場所があって、同じ思いを持つスタッフや支援者のみなさんに出会えるのは、なんて幸せなんでしょう。

非力な私たちですが、これから、みなさんと一緒に歩んでいきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

こぼら通信

子どもの村ボランティア　足立慶子さん（こぼら歴３年）

ボランティアの企画ミーティング

皆さんこんにちは。 こぼらの仲間の足立慶子と申します。

すでにご存知かもしれませんが、こぼらは「子どもの村ボランティアネットワーク」の略称です。

その活動は、街頭募金や託児係、村の草取りと多種多様です。また村の皆さんとの交流会や親睦会なども企画しています。私達の基本的な参加姿勢は「子どもの村のために　自分がやれる事をやれる時にしよう 」です。

最近はこれに〈楽しく参加！〉も加わりました。そうなんです！年齢や仕事に関係なくニュースレターの袋詰めなどをワイワイやっていると仲間の輪が広がり、話も弾みます。何だか満たされた気分です。

どうぞ お気軽に事務所にお立ち寄り下さい、そしてこの楽しさをご一緒に共有しませんか！

NEWS 05 INFORMATION

里子・里親のためのリフレッシュキャンプを応戦してください

2012 年からはじまったこのキャンプは、山口県徳地の大自然の中という非日常の中で、里親や里子が他の里親家庭やボランティアサポーターと出会い、ともに遊び、交流することを通して、新たな自分に出会い、新たな気持ちで日常に戻っていくという意味で、『リフレッシュキャンプ』と命名されました。

100 名を超す、里親・里子・ボランティアサポーターが参加する、一年に一度の一大プロジェクトです。

このキャンプの運営は、多くの皆さまの物心両面でのご寄付・ご支援で成り立っています。今年もこのプロジェクトへのご寄付を呼びかけていきます。

（キャンプ日程:9 月 19～21 日）

一般公開研修会開催のお知らせ

社会的養護の現状と課題、SOS子どもの村の取り組みについて、広く市民に知って頂くための、公開研修会の第 1 回目が、6 月 13 日に行われました。

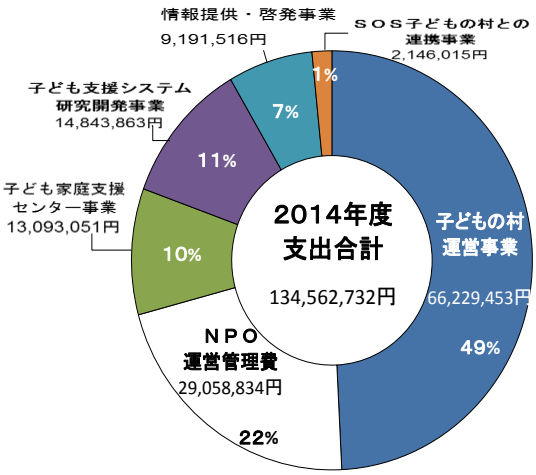
福祉関係者、会社員、医療関係者、学生など様々な分野の方が参加され、講義後の交流会では、活発な意見交換もあり、たくさんの子どもの村への応援や期待が寄せられました。

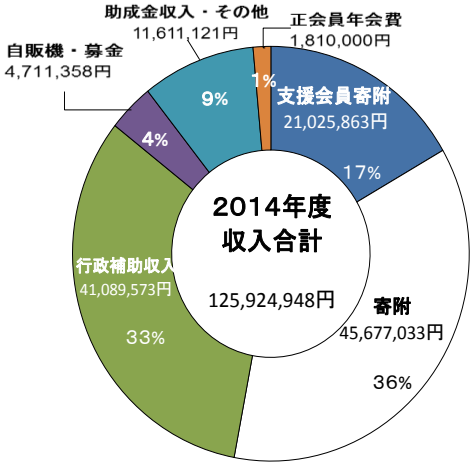
次回の内容は次のとおりです。

テーマ:「子どもの未来を築く愛着の絆とトラウマのケア」
講師:松﨑佳子先生(九州大学大学院)
日時:2015 年 10 月 24 日(土)13:30～16:00
場所:福岡市こども総合相談センター7F
お申込みは事務局まで

NEWS 06 会計報告(2014 年度の収支報告)

皆さまからのご寄附は、以下の通り活用させて頂きました





【新事務局長よりごあいさつ】

子どもの村福岡の開設当初から、ちょこっと運営に関わっていましたが、この 5 月から事務局長に就任いたしました。事務局には、幼稚園児の色とりどりの折り紙等に入った募金やチャリティコンサートの寄附などが届き、様々な形で支援してくださっている個人、企業、地域の方々お一人おひとりの気持ちに触れ、感謝しながらの毎日です。

今、子どもたちは今津の子として豊かな自然や文化など素晴らしい環境の中で、育親さんにあふれる笑顔で見守られ育まれています。子どもたちが自分を大切に、生き生きと輝き、自立できるようにと願っています。（田代 多恵子）